

## 『子どもの発達と消費生活の諸問題』と題して ～岐阜大学・大藪千穂先生の講座より～

8月25日（金）輪之内町図書館において、小中学校保護者を対象に、小中合同家庭教育学級が開催されました。今回は、岐阜大学の<sup>大藪千穂先生</sup>をお招きし、『子どもの発達と消費生活の諸問題』と題して、講座が開催されました。

子育て世代の家庭教育として何が大切か、金銭教育の実践が子どもの人間発達に及ぼす影響など、非常に興味深い講話をしていただきました。

### 【大藪先生の講話より】

子どもの発育においてどんな教育が重要か、IQテストや学力検査などによる認知的スキルでは人生が成功するかどうかは決まらず、肉体的・精神的健康、根気強さ、注意深さ、意欲、自信といった社会的、情動的性質も欠かせません。

その中でも幼少期の教育が重要であり、小さいうちから「我慢強さ」を身につけることが重要であると言えます。忍耐強さをつける『マシュマロテスト』というテストがあります。ある一定時間、子ども一人を部屋に残し、お皿に一つのマシュマロを置きます。お母さんが戻ってくるまで、マシュマロを食べないで我慢できた子は、ご褒美にもう一つマシュマロがもらえるというルールです。食べないで我慢強く待つことが出来る子もいれば、食べてしまう子もいます。

教育とは、情報収集と情報活用であり、人間の発達を促すものです。「金銭教育」は、金銭問題を題材として、人間の発達に合わせて内面の変化を促す教育です。現在の学習指導要領では、高校家庭科において、家計管理等に関する内容の消費者教育が盛り込まれていますが、私は、小学生、中学生においても、「人生設計ゲーム」を取り入れて授業を行っています。ゲームの中で、情報を収集し、情報を活用し、現実把握する力を持てるように促します。最初は漠然としていた自分の人生や幸せのイメージが、このゲームの中で、少し現実味が増し、お金をためて〇〇したいとか、結婚したい、子どもが〇人欲しいという思考力が芽生えます。これが高校生や大学生になると、より具体的な職業であったり、どんな資格が必要とか、年収△△△万円だとか、子どもを持つ年齢のビジョンを描く学生も出てきます。

小学生期には、情報の「活用力」が「現実把握力」と「人間発達」に大きく影響すると考えられます。ゲーム終了後にはお金の稼ぎ方、使い方まで考えるようになり、単純な自分のお小遣いの使い方や計画性だけでなく、お金と生涯の関係を含む内容まで金銭教育を推し進めることが望ましいのではないかと考えています。

家庭で金銭教育を実践するには、お小遣いによる金銭教育だと思います。子どもにお金のことを学ばせる大切な機会です。教育的な意味では、『約束を守ること、我慢すること、計画を立てること、続けること』です。

最近、子どもが勝手にゲームに課金し、親のクレジットカードを使用して、大金を消費するというトラブルが絶えません。クレジットカードの支払いも、現金ではない方法で物事を消費しています。それをしっかり教え、家族間でルールを作ることが大切ですし、小学校、中学校でかかる費用、我が家の家計について親子で話すことも必要かもしれません。